

世界中の多くの国では、国が国民に対し、自発的に臓器を提供する意思があるかどうかを尋ねるのが一般的である。現在、臓器提供は多くの人にとって強烈な感情を引き起こす問題の一つである。一方で、ある人の命が別の人の命へと変わる機会でもある。しかしまた一方で、あなたの関知しないところであなたの臓器が役に立っているというの、ちょっと戸惑いがあるといったこと以上のものである。それゆえ、人によって結論が異なるのは驚くものでもなく、また国ごとで臓器提供率が大きく異なるのも当然である。しかし、世界的にどれだけ異なっているかを知ると、おそらく大いに驚くことだろう。数年前に Eric Johnson と Dan Goldstein という 2 人の心理学者が行った研究によると、臓器提供に同意している人の割合は欧州各国でばらつきがあり、最も低い場合で 4.25%、最も高い場合で 99.9%であった。このような差についてより興味深いのは、その分布が分散しているのではなく、むしろ 2 つの大きく異なる集団を形成していたことであった。それは臓器提供率が 1~20%弱の集団と、90%超の集団であり、両集団の間にはほとんどなかった。

そのような大きな差異はどう説明できるだろうか？この質問は、この研究が発表されてそれほど経たないうちに、私がコロンビア大学の聡明な生徒たちの教室で投げかけたものである。実際、私が生徒たちに考えるよう求めたのは、2 つの匿名の国、A と B であった。A 国ではおよそ 12%の国民が臓器提供に同意しているのに対し、B 国では 99.9%が同意している。そこで彼らは、国民の選択を説明する 2 国の相違が何かを考えた。賢く想像力のある生徒だったので、彼らは様々な可能性を提示した。おそらく、一方は非宗教的であるのに対し、一方は経験深いのではないか。一方は他方に比べて医療がより進んでおり、臓器移植の成功率もより高いのではないか。事故死率が一方よりも高く、結果として利用可能な臓器がより多いのではないか。あるいは一方がより社会的な文化で、共同体の重要性を強調しているのに対し、一方は個人の権利を重んずるのではないか。

どれもが良い説明であった。しかし、次にやってきたのは予想外の事実だった。A 国は実際のところ、ドイツであり、B 国は…オーストリアだったのだ。気の毒な生徒たちは当惑してしまった。一体全体、ドイツとオーストリアは何がそんなに違うのだろうか？しかし、生徒はまだあきらめていなかった。おそらく、法律や教育制度など、自分たちが知らない点で何らかの違いがあるのではないか？あるいはオーストリアで臓器提供への積極的な支持をもたらした何らかの重要な出来事、もしくはメディアによる宣伝があったのではないか。第二次世界大戦と関連しているのだろうか？もしかしたら、自分たちが思っている以上にオーストリア人とドイツ人は大きく異なっているのではないか？この差の理由が何かを生徒は知らなかった。しかし、何か大きなものであることは確信していた。そのような極端な違いを偶然理解するのではなく、決して予期することのなかった理由のためにそういう違いが理解できるのである。そして、全くその想像力ゆえに、生徒は決して本当の理由を解き明かすことができなかった。それは本当のところ、きわめて単純だ。オーストリアでは既定の選択肢が臓器を提供するというものであるのに対し、ドイツの場合は提供しないというものである、というのがその理由である。方式の違いは微々たるものようである。すなわち、単純な形式で郵送しなければならないのか、郵送の必要はないのか、という違いにすぎない。しかし、それだけで、提供率を 12%から 99.9%に押し上げるのに十分なのである。そして、オーストリアとドイツに当てはまることは欧州全土に当てはまる。臓器提供率が極めて高い国はすべからずオプト・アウト方式である一方、率の低い国は総じてオプト・イン方式であった。

【解答例】

問 1

c

問 2

how much global variation there is

問 3

c

問 4

(あ)d (い)a (う)d (え)d

問 5

e

問 6

そのような極端な違いを偶然理解するのではなく、決して予期することのなかった理由のためにそういう違いが理解できるのである。

問 7

(1)(あ)ドイツ (い)オーストリア (う)12 (え)99.9

(2)意思表示をしない限り、基本方針である全員参加が適用される。